

白神通信

平成30年度の主な取組みについて

平成5年に世界遺産に登録された白神山地は、早いもので今年25周年を迎えました。関係機関や団体等では、記念イベントが盛りだくさんに計画されているようです。当センターも白神山地の価値や魅力を普及していくために、イベントの実施に協力するなどして白神山地を盛り上げて行くと共に、後世に引き継いでいけるよう多くの関係者や関係機関との連携の下に今年度も引続き保全活動に力を入れて参ります。

まず1つ目に、世界遺産地域における保管理として、違法行為の防止と入山者マナーの向上促進

をするため巡視員や地元自治体等と連携して巡視活動や合同パトロールを実施します。

特に大滝林道から粕毛川上流についてはマナー違反がないよう巡視を強化して参ります。また、森林病虫害を防止する観点から、小岳の貴重なハイマツ林においてマツクロホシハバチによる食害調査や、ナラ枯れの調査についても普段の巡視活動を通じて実施して参ります。これらの情報は巡視員会議等で、関係機関や巡視員の方々と情報共有や意見交換等を行って参ります。

2つ目に、年々白神山地周辺で目撃情報が増加しているニホンジカについて生息状況を把握するため、遺産地域周辺に自動撮影カメラを33台設置し、関係機関と連携・協力し、定点調査を実施します。得られたデータについては科学委員会へ情報提供し、ニホンジカの移動ルート の 解明、ニホンジカの効率的な捕獲等に役立てられます。また、平成28年度から実施している小型囲いわなでの試行的捕獲をICT(情報通信技術)を活用し餌となる下草の少ない春と秋の年2回実施します。ニホンジカの生息はまだ少ないと考えられていますが、繁殖力が高いため一旦増えると密度調整をするのが難しく、森林被害を起こす恐れがありますので早い段階から注意していく必要があると考えています。

3つ目に、自然観察を通じて世界遺産の価値や魅力を普及啓発するため、一般の方を対象とした「白神森林講座」を3回実施します。その内の1回は参加者から要望が多かった冬季に実施し、スノーシューで雪の上を歩きながら冬の白神山地を体験していただきます。また、地元教育機関や自治体からの要請による森林教室や自然観察会等を実施し、自然の大切さ等を伝えて参ります。

また、ご不便をおかけしていた岳岱多目的展示施設の照明については修繕しておりますので、引続き皆様のご利用をお願いします。

これらの取組みは、ホームページや広報誌「白神通信」に掲載して参りますのでご覧いただければ幸いです。

今年度も、当センターの活動が地域の方々にお役に立てるよう、職員一同力を合わせて取組んで参りますので、引続き皆様のご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。



6月1日岳岱「400年ブナ」撮影

ニホンジカ対策開始

4月20日(金)、昨年に引き続き今年もICT(情報通信技術)を活用した小型囲いわなの試行的捕獲事業をスタートさせました。

昨年は捕獲には至らなかったものの、10月から11月にかけて囲いわなの直近で♂2頭・性別不明2頭、合計4頭のニホンジカが撮影されました。写真①が囲いわなの設置状況ですが、画面奥の車が停まっている所から檻まで作業道が付けられており、シカは歩きやすいこの道を利用していることが判明しました。

この場所に囲いわなを設置し続けること1年、檻に対する警戒心が薄れてきていることを期待して、今年も同じ箇所に囲いわなをセットして一連の動作確認を行いました②。【シカ役の畠山専門官が檻に入る→檻上部のセンサーが感知してゲート落下→スマートフォンに檻内部の画像がメール送信】・・・という一連の流れをチェックし、送信された画像③を見てさらにカメラの向きを微調整して(この時はわずかに右に向けました)、囲いわなのセッティング完了です。ゲートを固定した状態で檻内外に干草やヘイキューブを撒いて誘引し、4月25日(水)からセンサーの電源を入れて稼働を始めました。

捕獲事業で特に気を付けなければならないのが、特別天然記念物であるニホンカモシカ④の錯誤捕獲です。わなのすぐ近くにセンサーカメラを設置して哺乳類の誘引状況を観察していますが、そこでカモシカが撮影された場合は一旦捕獲事業をストップし、しばらくカモシカが写らないことを確認した後に再開しています。カモシカの行動に留意しながら、春期は5月末まで、秋期は9月中旬から12月下旬まで捕獲事業を行う予定です。

また、4月27日(金)からセンサーカメラによる中・大型哺乳類調査も開始しました。昨年より4台増となる合計30台を白神山地周辺に順次設置していき、ニホンジカやイノシシの侵入状況や、ハクビシンやアライグマといった外来種の分布状況をモニタリングします。昨年特にニホンジカが多く撮影された八峰町の西海岸方面のカメラを増やし、データを今後の捕獲事業に活かす予定です。ニホンジカを目撃しましたら、是非当センターまで情報をお寄せ下さい。



①小型囲いわな



②動作確認中



③メール送信された画像



④わな直近で撮影されたカモシカ(2018. 5. 1)

田代公民大学で世界遺産「白神山地」について講演 (出前講座)

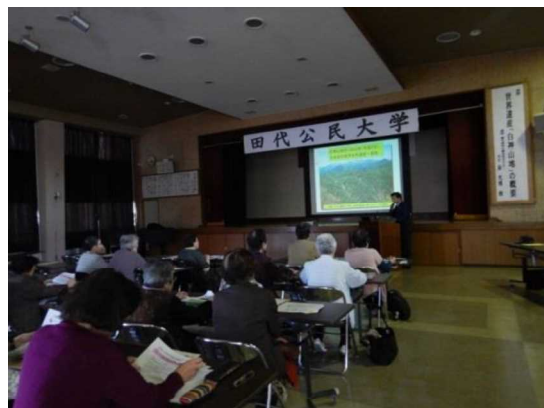
5月9日(水)に大館市早口の田代公民館で、大館市在住の成人を対象にした田代公民大学(教養課程)の一貫として、当センターの出前講座を行いました。

「世界遺産白神山地の概要」とセンターの取組について、スライドを用いて講義を実施しました。60代から80代、18名は白神山地は平成5年に世界自然遺産に登録されたこと、東アジアで最大の原生的なブナ林とその豊かな森林生態系を形成していることや、白神山地世界遺産地域の管理基本方針や法指定等様々なことを熱心に学習しました。

また、ブナの実を触ったり、キハダをなめたりと白神山地を少し体験しました。「このブナの実を植えていいですか。」「植えるにはいったん水で芽だしてから植えればいいのか。」など聞かれました。

当センターの取組の紹介では、近年ニホンジカ被害の防止対策としてセンサーカメラや囲いわなを設置していることや、センサーカメラで撮影された「ニホンジカ」「イノシシ」「ニホンカモシカ」などについて説明し、受講者は大変興味深く学習しました。

予定の時間を超過するほどの有意義な講座となりました。



スライドを使用した講座の様子



なつかしいお薬の味!キハダ

多目的展示施設(岳岱)に写真を展示しました。

多目的展示施設内の壁に森林教室や自然観察会等、哺乳類や虫類をパウチした写真を展示しリニューアルしました。また、ボードの「生命 400年ブナ」コーナーには、ブナの姿を時系列にならべ展示しましたので、岳岱自然観察教育林にお越しの際は、多目的展示施設も併せてご利用下さい。



ヤマハッカ

シソ科ヤマハッカ属



能代市二ツ井町の七座山国有林内を散策中に白い花が咲き乱れるところ紫色の花が目立ちました。

ヤマハッカの名前がついて

いるが、香気はほとんどありません。山野にごく普通にみられる高さ0.4～1mの多年草、茎は木質化した地下茎から直立し、長さ3～6センチ。幅2～4センチの広卵形で、基部は細くなって柄の翼に続きます、ふちには細かい鋸歯があり、枝先に細長い花穂をだし、青紫色の小さな唇形花をまばらにつけます。上唇は4裂してたちあがり、下唇は2裂して前方へ突きだします。

シロバナエンレイソウ(ミヤマエンレイソウ)

ユリ科エンレイソウ属



秋田県大館市の矢立峠近くのスギ林で仕事に、まだ肌寒さの残る時期にひっそりと春を告げていました、

山地のやや湿り気のある林地内に生える多年草です。茎は20～40センチ。葉は葉柄を持たず、広卵形で長さ幅ともに7～17センチあり3枚が輪生します。茎の先端から花柄をだし、花を1個つける。外花被片3個は緑色、披針形で先はとがります。内花被片3個は白色。6本の雄蕊をもつ花を生じます。内花被片は外花被片より長く、外花被片の先端がとがります。

転入・転出者紹介

4月1日付で津軽白神森林生態系保全センターからこちらへ異動してきました。



専門官 有本実

趣味は登山・釣り・バードウォッチング等で、野生動植物の観察・撮影と昆虫の標本作成がライフワークです。休日は白神山地周辺のどこかに出没しますので、見かけましたらお声掛け下さい。

4月1日付けで当センターに勤務になりました齋藤です。



齋藤俊介

新規採用なので分からないことも多く、ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、一生懸命業務に取り組みます。よろしくお願いたします。

生態系管理指導官 柳生瞬一

4月1日付けで津軽森林管理署へ異動することとなりました。短い期間でしたが大変お世話になりました。

岳岱自然観察教育林や田苗代湿原など藤里町を代表するような自然豊かな場所で仕事ができたことは良い思い出となりました。体調不良により登山などが出来ず藤里森林保全生態系保全センターの職員の方々には多大なご迷惑をおかけしまして申し訳ありませんでした。紙面を借りてお詫び申し上げます。センターの皆様には今後も魅力ある白神山地の情報発信や保全管理に努めて戴きますようお願いし離任の挨拶といたします。ありがとうございました。

4月1日付けで米代東部森林管理署に異動となりました。在職中は大変お世話になりました。体はやや大きめですが、心はノミ程小さいため、着任した際は非常に不安でしたが、



専門官 柳谷秀喜

地元や関係機関の皆さんから支えていただきながら、白神山地世界遺産地域の保全と普及に少しだけですが、携わることができました。本当にありがとうございました。

編集後記

初夏となりました。少し前まで、ホトギス科のカッコウとホトギスが今年も鳴き始めました。「カッコー、カッコー」「ケキョ・ケキョ」今年の鳥は特にうるさい!。特にカッコウはこちらで鳴いて、あちらで鳴いて「のど自慢大会」に出るとカネが3つなるよ?。(審査員は私)

また、カッコウは他の鳥(オオヨシキリ、ホオジロ、モズ)、に托卵する種で有名です。いろいろな子育てがあり、自然界がうまくつながっているんですね。(M. H)